

株 主 各 位

横浜市戸塚区品濃町545番地5
アイエグループ株式会社
代表取締役社長 古川 教行

第32期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第32期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいまして、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成27年6月22日（月曜日）午後6時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 日 時 | 平成27年6月23日（火曜日）午前10時 |
| 2. 場 所 | 横浜市西区南幸2丁目16番28
横浜国際ホテル 2階 相模の間
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。) |
| 3. 目的事項
報告事項 | 1. 第32期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第32期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）計算書類の内容報告の件 |
| 決議事項
議 案 | 取締役7名選任の件 |

以 上

-
1. 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、資源節約のため、この「招集ご通知」をご持参くださいますようお願い申し上げます。
 2. 株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類および連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.ia-group.co.jp/>) に掲載させていただきます。

(添付書類)

事業報告

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和等により企業収益や雇用環境などに緩やかな回復基調が見られました。しかし、消費税引き上げ以降の個人消費回復の足取りは鈍く、物価上昇に伴う実質所得の低下など、依然先行き不透明な状況が続きました。

このような中、当社グループは基幹事業であるカー用品事業およびブライダル事業を中心に、厳しい経営を余儀なくされました。

カー用品事業につきましては、平成26年5月に株式会社オートバックス神奈川の株式取得を行い、神奈川県下においてオートバックス2店舗・スーパーオートバックス1店舗を、東京都下においてオートバックス1店舗を取得いたしました。また、新たにタイヤ預かりサービスの大型専用倉庫を神奈川県下に3拠点、岐阜県下に1拠点設置するとともに、車検やメンテナンスなどのピットサービス部門および車販売の強化をいたしました。しかし、株式取得に伴う経費の増加や消費税増税後の消費マインドの鈍化などが影響し、増収減益となりました。

ブライダル事業につきましては、平成26年9月に大阪府大阪市においてアルカンシエルリュクスマリアージュ大阪を、平成27年3月に東京都港区南青山においてアルカンシエル南青山をそれぞれグランドオープンさせました。しかし、新規出店の開業準備費用の発生や既存の式場における消費税の駆け込み需要の反動減が影響し、減収減益となりました。

建設不動産事業につきましては、保有物件の積極的売却と収益性を重視した賃貸物件の獲得に注力し、減収となりましたが、販売管理費の節減や効率経営の徹底により、ほぼ前連結会計年度通りの利益となりました。

また、新たな事業として、株式会社コメダとフランチャイズ契約を締結し、立地を厳選した中、神奈川県下において、お客様にコミュニティーの場を提供するコメダ珈琲3店舗をオープンさせました。

コンピューターソフト事業につきましては、平成26年7月末日をもって株式会社トランザスに事業譲渡を行いました。

この結果、当連結会計年度の売上高は35,237百万円と前期比2.2%の減収となりました。また、営業利益につきましては969百万円と前期比56.7%の減益、経常利益につきましては、1,474百万円と前期比41.8%の減益、当期純利益は827百万円と前期比41.8%の減益となりました。

事業の種類別売上高の概況

区 分		当連結会計年度 H26.4.1～H27.3.31		前連結会計年度 H25.4.1～H26.3.31		前年度比増減	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減金額 (百万円)	増減率 (%)
カー用品	カー用品事業	21,486	61.0	20,355	56.5	1,130	5.5
	内部売上消去等	△5	△0.0	△3	△0.0	△1	－
	計	21,481	61.0	20,352	56.5	1,128	5.6
ブライダル	ブライダル事業	9,660	27.4	10,469	29.1	△809	△7.7
	内部売上消去等	△0	△0.0	△0	△0.0	0	－
	計	9,660	27.4	10,469	29.1	△809	△7.7
建設不動産	建設不動産事業	4,171	11.8	4,629	12.8	△458	△9.9
	内部売上消去等	△800	△2.3	△248	△0.7	△551	－
	計	3,371	9.5	4,380	12.2	△1,009	△23.1
その他	コンピューターソフト事業	159	0.5	501	1.4	△342	△68.2
	メディアレンタル・ゲームソフト事業	－	－	369	1.0	△369	△100.0
	総務・経理代行業務	2,008	5.7	1,502	4.2	506	33.7
	内部売上消去等	△1,442	△4.1	△1,537	△4.3	95	－
	計	725	2.1	835	2.2	△110	△13.2
合 計		35,237	100.0	36,038	100.0	△800	△2.2

(2) 設備投資等の状況

当連結会計年度中における企業集団の設備投資の総額は、4,312百万円であり、その主要なものは、「アルカンシエルリュクスマリアージュ大阪」と「アルカンシエル南青山」の建物への支出によるものであります。

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度中に、当社グループの所要資金として、金融機関より長期借入金として5,100百万円の調達を行いました。

(4) 財産および損益の状況

区 分	第 29 期 (平成24年3月期)	第 30 期 (平成25年3月期)	第 31 期 (平成26年3月期)	第 32 期 (平成27年3月期)
売 上 高 (千円)	37,684,041	36,907,961	36,038,161	35,237,745
経 常 利 益 (千円)	2,558,429	2,471,409	2,533,452	1,474,007
当 期 純 利 益 (千円)	1,207,374	1,444,054	1,421,252	827,413
1株当たり当期純利益	135円88銭	163円16銭	163円56銭	96円79銭
総 資 産 (千円)	29,007,733	27,532,460	28,272,394	31,574,851
純 資 産 (千円)	11,331,226	12,531,094	13,647,176	14,010,410
1株当たり純資産額	1,275円57銭	1,423円39銭	1,575円12銭	1,672円96銭

(注) 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数に基づき、1株当たり純資産額は期末発行済株式総数に基づき算出しております。なお、それぞれ自己株式数を控除した株式数によって算出しております。

(5) 対処すべき課題

当社グループを取り巻く環境につきましては、少子化や高齢化に伴う市場の縮小、優秀な人材の確保、また顧客ニーズの多様化や競合の激化など、依然厳しいものが続くと思われまます。

そのような中、カー用品事業につきましては、収益率の高い車検やメンテナンスなどピットサービス部門の強化を行うとともに、当連結会計年度より稼働させましたタイヤ倉庫によるタイヤの預かりサービスなど、事業の拡大を行い、顧客ニーズを先取りした経営を行ってまいります。

また、プライダル事業につきましては、石川県金沢市に新たな出店を行うとともに、既存の式場につきましては必要に応じたりニューアルを適宜実施するなど施設の鮮度に努めてまいります。

建設不動産事業につきましては、安定高利回りの賃貸物件の継続維持を図るとともに、グループ資金を活用した高収益物件の適時購入確保を行うなどにより、安定した収益性の確保に努めます。

また、「人材の育成と発掘」にも鋭意努め、「質において圧倒的NO.1」を実現することを通じて、企業価値の向上を目指し、同業他社との差別化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(6) 重要な親会社および子会社の状況

重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の出資比率	主 要 な 事 業 内 容
株式会社アイエー	千円 300,000	% 100.0	カー用品事業
株式会社アイエーマネージメントサービス	10,000	(100.0)	カー用品事業
株式会社アルカンシエル	58,600	100.0	ブライダル事業
株式会社アルカンシエルプロデュース	10,000	(100.0)	ブライダル事業
株式会社アイディーエム	88,000	100.0	建設不動産事業
株式会社アイディーエムパートナーズ	50,000	(100.0)	建設不動産事業
株式会社IAGアセット	50,000	100.0	建設不動産事業
株式会社IAGコンストラクション	20,000	(100.0)	建設不動産事業
株式会社エフ・エム・クラフト	30,000	(100.0)	建設不動産事業

(注) 当社の出資比率の欄の()内の数字は、間接保有割合(内数)であり、当社の子会社が保有しております。

(7) 主要な事業内容(平成27年3月31日現在)

事 業	事 業 内 容
カー用品事業	日本最大のカー用品総合専門店チェーン「オートボックス」「スーパーオートボックス」および車検専門店「テクノキューブ」のフランチャイジー店舗の経営
ブライダル事業	ハウスウエディングスタイルの結婚式場の経営 ブライダル施設の再生投資事業およびブライダル事業に関わるコンサルティング事業
建設不動産事業	不動産開発・管理および販売ならびに建設事業、「フィールズ」店舗による不動産賃貸仲介サービス業務
その他の事業	総務・経理代行業務、コメダ珈琲店の経営

(注) コンピューターソフト事業につきましては、昨年7月末日をもって事業譲渡し、本年3月25日に清算終了しております。

(8) 主要な事業所等 (平成27年 3月31日現在)

当 社	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 5
株 式 会 社 アイ エ ー	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 3 岐阜支社：岐阜県岐阜市宇佐 3 丁目16番 2 ・オートボックス店舗 26店舗 (神奈川県17店 東京都 3店 岐阜県 5店 愛知県 1店) ・スーパーオートボックス店舗 6 店舗 (神奈川県 5店 岐阜県 1店) ・テクノキューブ店舗 12店舗 (神奈川県10店 東京都 2店)
株式会社アイエーマネージメントサービス	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 3
株 式 会 社 アルカンシエル	本 社：愛知県名古屋市西区牛島町 4 番地 1 ・プライダル店舗 7 店舗 (岐阜県 1店 愛知県 2店 大阪府 2店 神奈川県 1店 東京都 1店)
株式会社アルカンシエルプロデュース	本 社：愛知県名古屋市西区牛島町 4 番地 1
株 式 会 社 アイ デ ィ ー エ ム	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 5 ・フィールズ店舗 4 店舗 (神奈川県 2店 東京都 2店)
株式会社アイディーエムパートナーズ	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町513番地 7
株 式 会 社 I A G ア セ ッ ト	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 5
株式会社 I A G コンストラクション	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 5
株式会社エフ・エム・クラフト	本 社：神奈川県横浜市戸塚区品濃町545番地 5

(9) 使用人の状況（平成27年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

事業の種類別セグメント	使用人数(名)	前期末比増減数(名)
カー用品事業	612 (183)	52 (31)
ブライダル事業	323 (123)	36 (△3)
建設不動産事業	36 (8)	△4 (0)
その他の事業	0 (0)	△30 (0)
当社	40 (30)	6 (20)
合計	1,011 (344)	60 (48)

- (注) 1. 使用人数は就業人員数であり、臨時使用人は()内に年間の平均人数を記載しております。
2. 使用人数が前期末と比べて60名増加しておりますが、その主な理由としては、カー用品事業において昨年5月に株式会社オートボックス神奈川の株式を取得したため、またブライダル事業においては、新大阪・南青山の新規出店によるものであります。
- その他の事業の減少の理由は、昨年7月末日にコンピューター事業部門を事業譲渡したためであります。

② 当社の使用人の状況

	使用人数(名)	前期末比増減数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)
男性	33	2	39.8	9.1
女性	7	4	31.1	8.0
合計または平均	40	6	38.3	8.9

- (注) 1. 使用人数は就業人員数であり、使用人兼務取締役は含んでおりません。
2. 上記のほか、臨時使用人が期中平均で30名（主にコマダ珈琲店）おります。

(10) 主要な借入先 (平成27年3月31日現在)

借入先	借入額 (千円)
株式会社 横浜銀行	4,268,722
株式会社 三井住友銀行	1,816,105
株式会社 三菱東京UFJ銀行	1,778,241
株式会社 みずほ銀行	749,073

(11) その他企業集団の現況に関する重要な事項
特に記載すべき事項はありません。

2. 株式に関する事項

- | | |
|--------------|-------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 26,744,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 10,126,800株 |
| (3) 株主数 | 978名 |
| (4) 大株主 | |

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
有限会社草創	2,770	33.07
ビービーエイチ フォー ファイデリティ ロー プライズド ストック ファンド	833	9.94
古川 教行	302	3.61
古川 恵子	301	3.60
株式会社横浜銀行	231	2.75
小黒 良太郎	216	2.57
田畑 憲士	190	2.26
川井 一秀	186	2.22
株式会社オートバックスセブン	180	2.14
小黒 美樹子	135	1.61

(注) 持株比率は自己株式 (1,752,175株) を控除して計算しております。

3. 新株予約権に関する事項

- (1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況 (平成27年3月31日現在)
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役および監査役の状況（平成27年3月31日現在）

会社における地位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	古 川 教 行	経営全般 (株) アイエー取締役
取締役副社長	田 畑 憲 士	経営全般、社長補佐 (株) アルカンシエル代表取締役副社長 (株) アイディーエム取締役 (株) IAGアセット取締役
取締役副社長	川 井 一 秀	社長補佐 (株) アルカンシエル代表取締役社長 (株) アルカンシエルプロデュース取締役
専務取締役	笛 木 信 之	管理部門、内部統制担当
常務取締役	小 野 敦	事業会社および事業再編・再構築担当
取締役	岡 野 良 信	経理財務部長
取締役	足 立 浩 二	開発部長 (株) IAGアセット常務取締役 (株) IAGコンストラクション代表取締役社長
取締役	藤 井 敏 光	(株) エフ・エム・クラフト取締役
常勤監査役	野 村 光 夫	(株) アイエー取締役副社長
監査役	橋 爪 俊 一	(株) 創新代表取締役社長
監査役	今 成 達 之	

- (注) 1. 監査役橋爪俊一氏および監査役今成達之氏は、社外監査役であります。
2. 当社は、監査役今成達之氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 平成27年4月1日付で地位を次のとおり変更しております。
- ・小野敦氏は、常務取締役から専務取締役に就任いたしました。
 - ・川井一秀氏は、取締役副社長から取締役に就任いたしました。
 - ・笛木信之氏は、専務取締役から取締役に就任いたしました。
4. 当社は従来、当社事業の現場に精通した社内出身者である取締役を中心に、迅速かつ当社事業の特性を踏まえた意思決定を取締役会で行うことを重視しており、社外取締役の選任は行っておりませんでした。
- もともと、当社といたしましても、経営への監督を強化するための社外取締役の選任の有効性に関する近時の議論を踏まえ、現在、社外取締役の候補者の選定を行っております。
- しかしながら、取締役として重要な経営上の意思決定に参加していただく

以上、企業経営への理解に加えて、当社が属する「カー用品業界・ブライダル業界・建設不動産業界」に関する知見を有した方である必要があり、また、経営への客観的な意見をいただくため、当社経営者からの独立性を有する必要があると考えております。現時点では、これらの要件を満たす適任者の方の選定に至っておりません。

(2) 事業年度中に退任した取締役および監査役
該当事項はございません。

(3) 取締役および監査役の報酬等の総額

区 分	人 員	報酬等の額
取 締 役	8名	191百万円
監 査 役 (うち社外監査役)	3名 (2)	12百万円 (2百万円)
合 計	11名	203百万円

- (注) 1. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、平成26年6月20日開催の第31期定時株主総会決議において年額300百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成6年6月15日開催の第15期定時株主総会決議において年額50百万円以内と決議いただいております。
4. 上記の報酬等の額には、以下のものが含まれております。
- ・当事業年度における役員賞与引当金の繰入額40百万円（支給対象取締役2名）。
 - ・当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額50百万円。

(4) 社外役員に関する事項

- ① 他の法人等の重要な兼職の状況および当社と当該他の法人等との関係
 - ・ 監査役橋爪俊一氏は、株式会社創新の代表取締役社長であります。
当社と株式会社創新との間には、特別な関係はありません。
- ② 他の法人等の社外役員の兼任状況および当社と当該他の法人等との関係
 - ・ 該当事項はございません。
- ③ 当事業年度における主な活動状況

	活 動 状 況
監査役 橋爪俊一	当事業年度に開催された取締役会18回のうち11回に出席し、監査役会12回のうち12回に出席いたしました。 社外監査役として中立かつ客観的観点から意見等を行っております。
監査役 今成達之	当事業年度に開催された取締役会18回のうち12回に出席し、監査役会12回のうち12回に出席いたしました。 社外監査役として中立かつ客観的観点から意見等を行っております。

- ④ 責任限定契約の内容の概要
 - ・ 社外監査役2名それぞれと当社の間で、当該監査役の会社法第423条第1項に関する責任につき、会社法第427条第1項に規定する損害賠償責任の限度は、法令の定める額としております。

5. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称

監査法人A&Aパートナーズ

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- | | |
|------------------------------------|----------|
| ① 公認会計士法第2条第1項の監査業務の報酬 | 25,000千円 |
| ② 当社および当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 25,000千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分ができないため、上記①の金額にはこれらの合計額を記載しております。

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合に監査役会が監査役全員の同意により会計監査人を解任します。また、会計監査人の独立性や適格性を害する事由の発生により、適正な監査業務を遂行できないと認められる場合は、会社法第344条第2項に基づく監査役会の決議により、会計監査人の解任または不再任に関する議題を株主総会に提案いたします。

(注) 「会社法の一部を改正する法律」(平成26年法律第90号)が平成27年5月1日に施行されたことに伴い、会計監査人の解任または不再任に関する議案の決定機関を取締役会から監査役会に変更しております。

6. 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

- (1) 当社および当社子会社の取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社グループは、企業が存立を継続するためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識のもと、すべての取締役および従業員が公正で高い倫理観に基づいて行動し、広く社会から信頼される経営体制の確立に努める。

また、当社グループは、定期的を実施する内部監査を通じて、会社の業務実施状況の実態を把握し、すべての業務が法令、定款および社内諸規程に準拠して適正・妥当かつ合理的に行われているかを調査・検証することにより、会社財産の保全ならびに経営効率の向上に努める。

- (2) 当社および当社子会社の損失の危険管理に関する規程その他の体制

当社グループは、リスク管理の推進に関して、リスクに係る規程を設定、運用を図る。リスクが現実化し、重大な損害の発生が予測される場合は、監査部長は速やかに社長ならびに取締役会に報告する。有事においては、社長を本部長とする「緊急対策本部」が統括して危機管理にあたることとする。

- (3) 当社および当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループは、環境変化に対応した会社全体の将来ビジョンと目標を定めるため、中期経営計画および各年度事業計画を立案する。経営計画を達成するため、取締役の職務権限と担当業務を明確にし、職務執行の効率化を図る。

- (4) 当社および当社子会社の取締役の職務執行に係る情報の保管および管理に関する事項

当社グループは、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や、各取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等、取締役の職務の執行に係る情報を適正に記録し、法令および「文書取扱規程」に従い定められた期間保存する。

(5) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、「事業会社管理規程」に基づき、事業会社に対する適切な経営管理を行う。

また、当社グループは、毎月1回、当社および当社子会社の取締役が出席するグループ月次経営会議を開催し、当社グループにおける重要な事象が報告され対応を協議する。

当社子会社の規模・業容、グループ全体に占めるウェイト等を考慮しつつ、子会社に対する適宜、適切な内部監査・検査を当社監査部が定期的実施することにより、当社グループにおける業務の適正を確保する。

(6) 当社の取締役および従業員ならびに当社子会社の取締役、監査役および従業員またはこれらの者から報告を受けた者が、当社監査役に報告するための体制

監査役は、取締役会等重要な会議に出席し、当社グループの取締役および従業員から重要事項の報告を受ける。

当社の取締役および従業員ならびに当社子会社の取締役、監査役および従業員は、各監査役の要請に応じて必要な報告および情報提供を行うとともに、当社グループの経営に重大な影響を及ぼす事項が発生または、発生する虞がある場合は、遅滞なく報告する。

(7) 前項の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社および当社子会社は、上記の報告を行った当社および当社子会社の取締役、監査役ならびに従業員に対し、当該報告を行ったことを理由として、解雇その他いかなる不利益な取り扱いを行わない。

(8) 監査役職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払い等の請求をしたときは、担当部門において審議のうえ、監査役職務の執行に必要でない認められた場合を除き速やかに当該費用または債務を処理する。

(9) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役社長と監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的な会合をもつこととする。

また、「内部監査規程」において、監査部長は監査役との密接な連携を

保つよう努めなければならない旨を定め、監査役監査の実効性の確保を図る。

(10) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社および当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対して毅然とした姿勢で臨み、不当・不正な要求を断固拒絶するとともに、反社会的勢力との関係を遮断することに努め、公共の信頼を維持し、適切かつ健全な業務の遂行を確保する。

また、反社会的勢力による不当要求等に備えて組織体制を整備するとともに、警察・暴力追放運動推進センター・弁護士等の外部専門機関と密接な連携関係を構築する。

反社会的勢力による不当要求等がなされた場合には、役職員の安全を最優先に確保するとともに、担当者や担当部署に任せることなく組織的な対応を行う。

また、いかなる形態であっても反社会的勢力に対する資金提供や事実を隠蔽するための取引は行わず、民事と刑事両面からの法的対応を行う。

(注) 「会社法の一部を改正する法律」(平成26年法律第90号)および「会社法施行規則等の一部を改正する省令」(平成27年法務省令第6号)が平成27年5月1日に施行されたことに伴い、平成27年5月8日開催の当社取締役会の決議により内容を一部改定しており、上記の体制は当該改定がなされた後のものであります。その改定内容は、当社グループの業務の適正を確保するための体制および監査に関する体制について当社グループの現状に則した見直しおよび法令の改正に合わせて具体的かつ明確な表現への変更をしたものであります。

7. 会社の支配に関する基本方針

当社は、継続的な企業価値の増大、ひいては株主共同の利益の向上のためには、当社の利害関係者との良好な関係を維持しつつ、経営の効率性や収益性を高める必要があり、そのためには専門性の高い業務知識や営業ノウハウを備えたものが取締役に就任し、法令および定款の定めを遵守しつつ当社の財務および事業の方針の決定につき重要な職務を担当することが必要であると考えております。

また、当社は、常に収益性、成長性、財務の健全化を重視し、特に自己資本当期純利益率、1株当たり当期純利益等の重要な経営指標の最大化を目指す企業経営に取り組んでおります。

不適切な支配の防止のための取組み等につきましては、重要な経営課題の一つとして、買収行為を巡る法制度や関係当局の判断・見解、世間の動向等を注視しながら、今後も継続して検討を行ってまいります。

8. 剰余金の配当等の決定に関する基本方針

(1) 当社は、安定的な利益還元を行うことを経営課題の一つとして認識しております。財務体質の一層の強化と将来の事業展開等を勘案して、内部留保の蓄積を図るとともに安定した配当を継続することを基本的な方針としております。

(2) 当社は、平成18年6月27日開催の定時株主総会において、会社法第459条第1項に基づく剰余金の配当等が取締役会決議により行えるよう定款変更を行っております。

当事業年度末の剰余金の配当等につきましては、平成27年5月8日開催の取締役会にて以下のとおり決議いたしました。

【期末配当に関する事項】

① 配当財産の種類
金銭とする。

② 配当財産の割当てに関する事項およびその総額
当社普通株式1株につき金12円とし、配当金の総額を100,495,500円とする。

③ 剰余金の配当が効力を生じる日
平成27年6月24日とする。

連結貸借対照表

(平成27年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	9,249,498	流動負債	7,930,169
現金及び預金	1,374,663	買掛金	1,313,816
売掛金	1,101,617	短期借入金	3,368,720
たな卸資産	5,449,524	リース債務	119,969
繰延税金資産	376,233	未払法人税等	82,775
その他	960,408	未払消費税等	194,690
貸倒引当金	△12,949	繰延税金負債	83,614
固定資産	22,325,353	未成工事受入金	38,626
有形固定資産	15,752,702	賞与引当金	386,977
建物及び構築物	9,724,043	役員賞与引当金	52,000
土地	5,039,798	ポイント引当金	201,784
建設仮勘定	10,800	その他	2,087,194
リース資産	330,921	固定負債	9,634,271
その他	647,138	長期借入金	6,602,911
無形固定資産	442,730	リース債務	215,281
のれん	349,263	繰延税金負債	16,500
電話加入権	7,784	長期預り保証金	1,191,650
その他	85,682	役員退職慰労引当金	200,000
投資その他の資産	6,129,920	退職給付に係る負債	341,901
投資有価証券	198,115	資産除去債務	1,062,490
長期貸付金	25,219	その他	3,535
長期前払費用	508,082	負債合計	17,564,441
差入保証金	4,437,653	純資産の部	
繰延税金資産	855,887	株主資本	13,958,824
その他	128,447	資本金	1,314,100
貸倒引当金	△23,487	資本剰余金	1,824,791
資産合計	31,574,851	利益剰余金	11,852,922
		自己株式	△1,032,989
		その他の包括利益累計額	51,585
		その他有価証券 評価差額金	53,987
		繰延ヘッジ損益	△2,402
		純資産合計	14,010,410
		負債・純資産合計	31,574,851

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

連結損益計算書

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売 上 高		35,237,745
売 上 原 価		20,485,390
売 上 総 利 益		14,752,354
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		13,782,362
営 業 利 益		969,992
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	30,867	
受 取 手 数 料	279,257	
受 取 販 売 奨 励 金	12,364	
受 取 賃 貸 料	101,441	
そ の 他	173,141	597,073
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	60,567	
そ の 他	32,490	93,057
経 常 利 益		1,474,007
特 別 利 益		
国 庫 補 助 金	6,799	
事 業 譲 渡 益	70,000	
固 定 資 産 受 贈 益	80,417	
そ の 他	1,869	159,086
特 別 損 失		
事 業 撤 退 損	36,072	
固 定 資 産 除 却 損	7,513	
固 定 資 産 圧 縮 損	6,799	
そ の 他	416	50,802
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		1,582,292
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	533,351	
法 人 税 等 調 整 額	221,527	754,879
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益		827,413
当 期 純 利 益		827,413

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

連結株主資本等変動計算書

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
当連結会計年度期首残高	1,314,100	1,824,791	11,284,347	△803,525	13,619,712
当連結会計年度変動額					
剰 余 金 の 配 当			△258,838		△258,838
当 期 純 利 益			827,413		827,413
自 己 株 式 の 取 得				△229,463	△229,463
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)					
当連結会計年度変動額合計	—	—	568,575	△229,463	339,111
当連結会計年度末残高	1,314,100	1,824,791	11,852,922	△1,032,989	13,958,824

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
当連結会計年度期首残高	30,171	△2,707	27,464	13,647,176
当連結会計年度変動額				
剰 余 金 の 配 当				△258,838
当 期 純 利 益				827,413
自 己 株 式 の 取 得				△229,463
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)	23,816	304	24,121	24,121
当連結会計年度変動額合計	23,816	304	24,121	363,233
当連結会計年度末残高	53,987	△2,402	51,585	14,010,410

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

連結注記表

I. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社

連結子会社の数 9社

連結子会社の名称

(株) アイエー

(株) アイエーマネージメントサービス

(株) アルカンシエル

(株) アルカンシエルプロデュース

(株) アイディーエム

(株) アイディーエムパートナーズ

(株) IAGアセット

(株) IAGコンストラクション

(株) エフ・エム・クラフト

なお、当連結会計年度末では(株)アドバンスにつきましては、平成27年3月25日に清算終了しており、連結の範囲から除いております。

平成26年5月1日に、(株)オートボックス神奈川の全株式を取得し、子会社としており、平成26年10月1日に(株)アイエーを存続会社として合併しております。

② 非連結子会社

該当事項はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計処理基準に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

オートボックス商品

移動平均法による原価法

販売用車輛

個別法による原価法

販売用不動産、未成工事支出金及び仕掛品

個別法による原価法

食 材

最終仕入原価法による原価法

貯 蔵 品

最終仕入原価法による原価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（建物附属設備を除く）

定額法

建物以外の有形固定資産

定率法

なお、事業用定期借地契約による借地上の建物及び構築物につきましては、主に耐用年数を定期借地権の残存年数とした定額法によっております。

耐用年数は次の通りであります。

建物及び構築物 2年～45年

ロ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

- ハ 無形固定資産（リース資産を除く）
 - 定額法
 - なお、耐用年数は、次の通りであります。
 - ソフトウェア 5年
 - ニ 長期前払費用
 - 定額法
- ③ 重要な引当金の計上基準
- イ 貸倒引当金
 - 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - ロ 賞与引当金
 - 従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
 - ハ 役員賞与引当金
 - 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
 - ニ ポイント引当金
 - 一部の連結子会社については、顧客に付与されたポイントの使用による売上値引発生に備えるため、当連結会計年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。
 - ホ 役員退職慰労引当金
 - 当社の役員の特別功労金支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。
- ④ 退職給付に係る会計処理の方法
- イ 退職給付見込額の期間帰属方法
 - 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
 - なお、一部の連結子会社については退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
 - ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
 - 発生時に全額費用処理しております。

⑤ 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。

ヘッジ対象…借入金

ヘッジ手段…金利スワップ、金利オプション

ハ ヘッジ方針

主に当社の「デリバティブ取引に関する内規」に基づき、金利変動リスクと為替変動リスクをヘッジしております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

⑥ のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

⑦ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、計算に用いる割引率を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率に変更しております。

なお、この変更に伴う期首の利益剰余金ならびに損益に与える影響はありません。

II. 連結貸借対照表の注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 9,892,129千円
(2) 有形固定資産の減損損失累計額
減損損失累計額は、減価償却累計額に含めて表示しております。

(3) 担保資産

担保に供している資産

預 金	50,000千円
建物及び構築物	545,765千円
土 地	2,313,870千円
投資有価証券	39,015千円

上記に対応する債務

短期借入金	2,092,872千円
長期借入金	3,435,535千円

(追加情報)

有形固定資産の保有目的の変更

当社の固定資産（353,730千円）を、保有目的の変更によりたな卸資産へ振り替えておりますが、すべて販売済みであり、当連結会計年度末のたな卸資産に含まれている金額はありません。

Ⅲ. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	10,126,800	—	—	10,126,800

(2) 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,462,611	289,564	—	1,752,175

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

取締役会決議に基づく自己株式取得による増加	284,000株
単元未満株式の買取りによる増加	5,564株

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月9日 取締役会	普通株式	155,955	18.0	平成26年3月31日	平成26年6月23日

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	102,883	12.0	平成26年9月30日	平成26年12月8日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の 原資	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月8日 取締役会	普通 株式	利益 剰余金	100,495	12.0	平成27年3月31日	平成27年6月24日

(4) 連結会計年度の末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

IV. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

また、取引先企業等に対し長期貸付及び保証金の差入を行っております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済日は最長で決算日後7年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジの有効性の評価方法等については、「I. (4) 会計処理基準に関する事項 ⑤ 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）

当社は、営業債権、長期貸付金及び差入保証金について、担当部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を行っております。

連結子会社についても、当社の担当部署が同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

連結子会社についても、同様であります。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクは僅少であります。

ロ 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引方針及び取引権限等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得ております。

ハ 資金調達に係るリスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社についても、当社の担当部署が同様の管理を行っております。

ニ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（注2参照）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,374,663	1,374,663	—
(2) 売掛金	1,101,617	1,101,617	—
(3) 投資有価証券	180,015	180,260	245
(4) 長期貸付金	25,219		
貸倒引当金（※1）	△23,208		
	2,011	2,011	—
(5) 差入保証金	4,437,653	4,330,363	△107,290
資産計	7,095,961	6,988,916	△107,045
(1) 買掛金	1,313,816	1,313,816	—
(2) 短期借入金	3,368,720	3,368,720	—
(3) リース債務（流動負債）	119,969	119,969	—
(4) 未払法人税等	82,775	82,775	—
(5) 長期借入金	6,602,911	6,590,915	△11,995
(6) リース債務（固定負債）	215,281	202,199	△13,082
(7) 長期預り保証金	1,119,626	1,116,062	△3,564
負債計	12,823,101	12,794,458	△28,642
デリバティブ取引（※2）	△3,535	△3,535	—

（※1）長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務を純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△を付しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 長期貸付金、(5) 差入保証金

長期貸付金及び差入保証金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを信用リスクに応じた適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積りキャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しています。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) リース債務（流動負債）、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金、(6) リース債務（固定負債）、(7) 長期預り保証金

長期借入金及びリース債務（固定負債）の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。

長期預り保証金の時価は、主に将来キャッシュ・フローに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。

デリバティブ取引

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非 上 場 株 式	18,100
投資有価証券合計(※1)	18,100
長期預り保証金(※2)	72,023

(※1) これらについては、市場性がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産 (3) 投資有価証券」に含めておりません。

(※2) 賃貸物件における賃借人から預託されている預り保証金は、市場価格がなく、かつ、賃借人の入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、「負債 (7) 長期預り保証金」に含めておりません。

V. 賃貸等不動産に関する注記

当社の一部の連結子会社では、神奈川県において賃貸用のオフィスビル（土地を含む）及び賃貸用の居住用マンションを有しております。平成27年3月期における当該賃貸等不動産に関する損益は、36,417千円（賃貸収入は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次の通りであります。

連結貸借対照表計上額（千円）			当連結会計年度末の時価 （千円）
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
1,347,903	△66,448	1,281,455	1,378,413

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度末の時価は、不動産鑑定士による鑑定書等の金額であります。
3. 主な賃貸等不動産の増減の原因は、賃貸等不動産の売却目的への変更による減少（353,730千円）及び賃貸等不動産目的への変更による増加（296,380千円）であります。

VI. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,672円96銭
(2) 1株当たり当期純利益	96円79銭
（算定上の基礎）	
当期純利益	827,413千円
普通株主に帰属しない金額	一千円
普通株式に係る当期純利益	827,413千円
期中平均株式数	8,548千株

VII. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成27年5月18日

アイエーグループ株式会社
取締役会 御中

監査法人 A & A パートナーズ

指定社員 公認会計士 齊藤 浩 司 ㊞
業務執行社員

指定社員 公認会計士 村田 征 仁 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アイエーグループ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アイエーグループ株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

連結計算書類に係る監査役会の監査報告

連結計算書類に係る監査報告書

当監査役会は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第32期事業年度に係る連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、連結計算書類について取締役及び使用人等から報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る連結計算書類について検討いたしました。

2. 監査の結果

会計監査人 監査法人A&Aパートナーズの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成27年5月19日

アイエグループ株式会社 監査役会

常勤監査役 野村光夫 ㊟

社外監査役 橋爪俊一 ㊟

社外監査役 今成達之 ㊟

以上

貸借対照表

(平成27年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	1,751,851	流動負債	3,558,262
現金及び預金	163,068	買掛金	8,168
原材料及び貯蔵品	2,197	短期借入金	2,420,000
前払費用	60,674	1年内返済予定の長期借入金	998,044
繰延税金資産	10,895	リース債務	6,520
短期貸付金	1,410,830	未払金	6,136
未収入金	98,549	未払費用	24,708
未立替金	2,635	未払法人税等	12,675
その他	3,000	未払消費税等	5,191
固定資産	13,084,502	前受金	12,168
有形固定資産	6,468,565	預り金	5,628
建物	2,145,696	賞与引当金	19,020
構築物	78,129	役員賞与引当金	40,000
機械及び装置	238	固定負債	4,514,498
車両運搬具	1,325	長期借入金	3,965,617
工具、器具及び備品	23,023	リース債務	24,135
土地	4,190,296	退職給付引当金	23,211
リース資産	29,853	役員退職慰労引当金	200,000
無形固定資産	14,192	長期預り保証金	75,707
ソフトウェア	13,523	資産除去債務	222,292
リース資産	668	その他	3,535
投資その他の資産	6,601,744	負債合計	8,072,760
投資有価証券	187,240	純資産の部	
関係会社株式	3,692,124	株主資本	6,712,006
出資金	14,490	資本金	1,314,100
長期貸付金	1,611,930	資本剰余金	1,824,791
長期前払費用	26,871	資本準備金	1,824,791
生命保険積立金	108,527	利益剰余金	4,606,104
差入保証金	733,182	利益準備金	72,459
繰延税金資産	227,657	その他利益剰余金	4,533,645
貸倒引当金	△ 279	別途積立金	3,850,000
資産合計	14,836,353	繰越利益剰余金	683,645
		自己株式	△ 1,032,989
		評価・換算差額等	51,585
		その他有価証券	53,987
		評価差額金	53,987
		繰延ヘッジ損益	△ 2,402
		純資産合計	6,763,592
		負債・純資産合計	14,836,353

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

損 益 計 算 書

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
(営 業 収 益)		
不 動 産 賃 貸 収 入	1,015,924	
不 動 産 売 上 高	354,196	
関 係 会 社 受 入 手 数 料	495,200	
飲 食 売 上 高	142,845	2,008,165
(営 業 費 用)		
不 動 産 賃 貸 原 価	702,822	
不 動 産 売 上 原 価	354,888	
飲 食 売 上 原 価	49,676	1,107,388
営 業 総 利 益		900,777
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		924,836
営 業 損 失		△ 24,058
(営 業 外 収 益)		
受 取 利 息	27,418	
受 取 配 当 金	443,018	
受 取 手 数 料	1,631	
そ の 他	27,238	499,306
(営 業 外 費 用)		
支 払 利 息	51,795	
そ の 他	1,154	52,950
経 常 利 益		422,297
(特 別 利 益)		
関 係 会 社 清 算 益	40,187	40,187
(特 別 損 失)		
固 定 資 産 除 却 損	56	56
税 引 前 当 期 純 利 益		462,427
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	27,763	
法 人 税 等 調 整 額	32,771	60,535
当 期 純 利 益		401,892

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

株主資本等変動計算書

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当 期 首 残 高	1,314,100	1,824,791	1,824,791
当 期 変 動 額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
当期変動額合計	—	—	—
当 期 末 残 高	1,314,100	1,824,791	1,824,791

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合 計	自己株式	株主資本 合 計
		別途積立金	繰越利益剰余金			
当 期 首 残 高	72,459	3,850,000	540,591	4,463,050	△803,525	6,798,416
当 期 変 動 額						
剰余金の配当			△258,838	△258,838		△258,838
当期純利益			401,892	401,892		401,892
自己株式の取得					△229,463	△229,463
当期変動額合計	—	—	143,053	143,053	△229,463	△86,409
当 期 末 残 高	72,459	3,850,000	683,645	4,606,104	△1,032,989	6,712,006

(単位：千円)

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 上 延 損 ッ 益	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	30,171	△2,707	27,464	6,825,880
当 期 変 動 額				
剰余金の配当				△258,838
当 期 純 利 益				401,892
自己株式の取得				△229,463
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	23,816	304	24,121	24,121
当 期 変 動 額 合 計	23,816	304	24,121	△62,287
当 期 末 残 高	53,987	△2,402	51,585	6,763,592

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

個別注記表

I. 重要な会計方針

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（建物附属設備を除く）

定額法

建物以外の有形固定資産

定率法

なお、耐用年数は、次の通りであります。

建物 3年～37年

構築物 8年～40年

機械及び装置 10年

車輛運搬具 6年

工具器具備品 5年～20年

(2) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、耐用年数は、次の通りであります。

ソフトウェア 5年

(4) 長期前払費用

定額法

3. 引当金の計上基準
- (1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金
従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。
- (3) 役員賞与引当金
役員に対して支給する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に負担すべき額を計上しております。
- (4) 退職給付引当金
- イ 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法について、期間定額基準によっております。
- ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
発生時に全額費用処理しております。
- (5) 役員退職慰労引当金
役員の特別功労金支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。
4. その他計算書類の作成のための重要な事項
- (1) 重要なヘッジ会計の方法
- イ ヘッジ会計の方法
繰延ヘッジ処理を採用しております。
- ロ ヘッジ手段とヘッジ対象
当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。
- ヘッジ対象…借入金
ヘッジ手段…金利スワップ、金利オプション
- ハ ヘッジ方針
「デリバティブ取引に関する内規」に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。
- ニ ヘッジ有効性評価の方法
ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。
ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。
- (2) 消費税等の会計処理
税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。)を、当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、計算に用いる割引率を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率に変更しております。

なお、この変更に伴う期首の利益剰余金ならびに損益に与える影響はありません。

II. 貸借対照表に関する注記

1. 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権	1,426,189千円
長期金銭債権	1,611,930千円
短期金銭債務	774,198千円
長期金銭債務	43,007千円

2. 有形固定資産の減価償却累計額

2,207,598千円

3. 担保資産

担保に供している資産

建物	545,765千円
土地	2,313,870千円
投資有価証券	39,015千円

上記に対応する債務

短期借入金	1,300,000千円
1年内返済予定の 長期借入金	772,492千円
長期借入金	3,435,535千円

4. 保証債務

次の通り債務保証を行っております。

被保証者	保証債務残高 (千円)	内容
(株) アイエー	765,755	仕入債務

(追加情報)

有形固定資産の保有目的の変更

当社の固定資産(353,730千円)を、保有目的の変更によりたな卸資産へ振り替えておりますが、すべて販売済みであり、当事業年度末のたな卸資産に含まれている金額はありません。

Ⅲ. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引	営業取引	1,429,487千円
	営業取引以外の取引	1,033,444千円

Ⅳ. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	1,462,611	289,564	—	1,752,175

（変動事由の概要）

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

取締役会決議に基づく自己株式取得による増加	284,000株
単元未満株式の買取りによる増加	5,564株

Ⅴ. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
（繰延税金資産）

会社分割による子会社株式調整額	134,448千円
減価償却費超過額	68,921千円
資産除去債務	71,263千円
退職給付引当金	7,441千円
賞与引当金	6,243千円
その他	70,752千円
繰延税金資産小計	359,070千円
評価性引当額	△64,117千円
繰延税金資産合計	294,953千円

（繰延税金負債）

資産除去債務に係る除去費用	△30,924千円
その他有価証券評価差額金	△25,476千円
繰延税金負債合計	△56,400千円
繰延税金資産の純額	238,553千円

VI. 関連当事者との取引に関する注記
子会社等

属性	会社名	住所	資本金 (千円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
子会社	(株)アイエー	横浜市戸塚区	300,000	カー用品の販売	(所有)直接 100.0	役員 2名	店舗の賃貸 管理部門業務の受託	店舗の賃貸	896,169	預り保証金	43,007
								管理部門業務委託の受託	354,000	—	—
								資金の貸付	2,750,000	短期貸付金	48,680
								資金の回収	2,673,648	長期貸付金	164,930
								資金の借入	10,970,000	短期借入金	700,000
								資金の返済	10,990,000	—	—
								債務保証	765,755	—	—
	(株)アルカンシエル	名古屋市西区	58,600	結婚式の請負	(所有)直接 100.0	役員 2名	管理部門業務の受託	管理部門業務委託の受託	96,000	—	—
								資金の借入	1,850,000	短期借入金	—
								資金の返済	2,860,000	—	—
								被債務保証	774,405 (注2)	—	—
	(株)アイディーエム	横浜市戸塚区	88,000	建設不動産業	(所有)直接 100.0	役員 1名	当社店舗設備業務、 営繕業務 管理部門業務の受託	管理部門業務委託の受託	28,800	—	—
								資金の貸付	1,010,000	短期貸付金	446,000
								資金の回収	1,386,000	長期貸付金	788,000
	㈱IAGアセット	横浜市戸塚区	50,000	建設不動産業	(所有)直接 100.0	役員 2名	管理部門業務の受託	資金の貸付	190,000	短期貸付金	238,000
								資金の回収	479,845	長期貸付金	264,000
	㈱エフ・エム・クラフト	横浜市戸塚区	30,000	建設不動産業	(所有)間接 100.0	役員 1名	管理部門業務の受託	資金の貸付	—	短期貸付金	678,150
								資金の回収	56,000	長期貸付金	395,000

(注1) 上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税等が含まれておりません。

(注2) 被保証債務のうち、289,440千円は、株式会社アイエー及び株式会社アルカンシエル共同で債務保証しており、それぞれ総額で記載しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 当社が受託する管理部門業務については、業務内容を勘案した上で受託金額について協議の上、決定しております。

2. 当社が子会社に行う資金貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
3. 当社が子会社に行う店舗の賃貸については、市場価格を勘案して合理的に決定しております。
4. 子会社の債務保証については、保証料の受取はありません。

VII. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	807円63銭
2. 1株当たり当期純利益	47円01銭
(算定上の基礎)	
当期純利益	401,892千円
普通株主に帰属しない金額	－千円
普通株式に係る当期純利益	401,892千円
期中平均株式数	8,548千株

VIII. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

平成27年5月18日

アイエーグループ株式会社

取締役会 御中

監査法人 A & Aパートナーズ

指定社員 公認会計士 齊 藤 浩 司 ㊤
業務執行社員
指定社員 公認会計士 村 田 征 仁 ㊤
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アイエーグループ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第32期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第32期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針については、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の遂行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- 四 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 監査法人A&Aパートナーズの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成27年5月19日

アイエーグループ株式会社 監査役会

常勤監査役 野村光夫 ㊟
社外監査役 橋爪俊一 ㊟
社外監査役 今成達之 ㊟

以上

株主総会参考書類

議案および参考事項

議 案 取締役7名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって、取締役全員（8名）は任期満了となります。

経営体制の効率化のため、取締役を1名減員し、取締役7名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株 式 の 数
1	ふる かわ のり ゆき 古 川 教 行 (昭和19年2月1日)	昭和59年3月 当社設立 代表取締役社長（現任） 平成元年7月 (株)アイディーエム設立 代表取締役社長 平成4年3月 (有)草創取締役（現任） 平成20年4月 (株)アイエー代表取締役社長 平成20年10月 会社分割社名変更「アイエーグループ(株)」 当社代表取締役社長「経営全般」（現任） 平成24年3月 (株)アイエー代表取締役 平成24年5月 (株)アイエー取締役	302,900株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株式の数
2	た ば た の り お 田 畑 憲 士 (昭和30年4月3日)	昭和59年3月 当社取締役 昭和61年3月 当社取締役店舗開発部長 平成元年7月 (株)アイディーエム取締役 平成3年4月 当社常務取締役開発本部長 平成4年8月 (株)アイディーエム代表取締役 社長 平成7年4月 当社常務取締役開発部所管 平成12年10月 当社専務取締役関連会社所管兼 開発部所管 平成16年4月 (株)アクシス代表取締役社長 平成19年4月 (株)アクシスエンタテインメン ト設立 代表取締役社長 平成20年4月 (株)アイエー取締役 平成20年10月 会社分割社名変更「アイエーグ ループ(株)」 当社取締役副社長「経営全般、 社長補佐」(現任) 平成21年5月 (株)アイディーエム取締役(現 任) 平成24年3月 (株)IAGアセット取締役(現 任) 平成27年3月 (株)アルカンシエル代表取締役 副社長(現任)	190,000株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株式の数
3	おの あつし 小野 敦 (昭和38年12月8日)	<p>平成6年10月 当社入社</p> <p>平成7年10月 当社開発部長</p> <p>平成13年2月 当社開発部長兼総務担当部長</p> <p>平成15年4月 当社商品部長兼総務部長</p> <p>平成15年6月 当社取締役商品部長兼総務部長</p> <p>平成19年2月 当社取締役営業副本部長兼商品部長</p> <p>平成20年10月 会社分割 (株)アイエー常務取締役営業副本部長兼商品部長</p> <p>平成23年2月 (株)アイエー常務取締役</p> <p>平成23年2月 当社社長付</p> <p>平成23年6月 当社常務取締役事業会社および事業再編・再構築・開発部門担当</p> <p>平成24年5月 (株)アルカンシエル取締役</p> <p>平成25年5月 (株)アルカンシエルプロデュース取締役</p> <p>平成26年6月 当社常務取締役事業会社および事業再編・再構築担当</p> <p>平成27年4月 当社専務取締役事業会社および事業再編・再構築担当(現任)</p> <p>平成27年5月 (株)アルカンシエル取締役(現任)</p>	5,500株
4	かわ い かず ひで 川井一秀 (昭和34年9月22日)	<p>昭和58年6月 (株)フレンド21入社 専務取締役</p> <p>平成13年4月 (株)フレンド21代表取締役社長</p> <p>平成20年4月 (株)アルカンシエル代表取締役社長(現任)</p> <p>平成20年4月 (株)フレンド21代表取締役社長</p> <p>平成20年6月 当社取締役</p> <p>平成20年10月 会社分割社名変更「アイエーグループ(株)」 当社取締役副社長「社長補佐」</p> <p>平成22年9月 (株)アルカンシエルプロデュース代表取締役社長</p> <p>平成23年5月 (株)アルカンシエルプロデュース取締役(現任)</p> <p>平成27年4月 当社取締役(現任)</p>	186,600株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株式の数
5	おかの よしのぶ 岡野良信 (昭和36年4月15日)	平成3年4月 当社入社 平成12年2月 当社管理部長 平成15年4月 当社経理部長 平成15年6月 当社取締役経理部長 平成20年10月 会社分割社名変更「アイエーグループ(株)」 当社取締役経理部長 平成23年2月 当社取締役経理財務部長 平成27年4月 当社取締役経理財務部長、内部統制担当(現任)	30,000株
6	あだち こうじ 足立浩二 (昭和39年10月11日)	平成8年4月 当社入社 平成13年4月 当社開発部長 平成17年4月 (株)アイディーエム取締役 平成17年6月 (株)パーソンズ取締役 平成19年4月 (株)アイディーエムメンテナンス「現(株)IAGコンストラクション」代表取締役社長(現任) 平成21年5月 (株)アルカンシエル取締役 平成24年3月 (株)IAGアセット取締役 平成24年5月 (株)IAGアセット常務取締役(現任) 平成25年4月 (株)エフ・エム・クラフト取締役(現任) 平成26年6月 当社取締役開発部長(現任)	6,500株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株式の数
7	ふじ い とし みつ 藤 井 敏 光 (昭和37年3月27日)	昭和59年3月 当社入社 平成6年6月 当社取締役店舗運営部長 平成7年4月 当社取締役営業部長 平成14年2月 当社取締役スーパーオートバックス十日市場ゼネラルマネージャー 平成17年2月 当社取締役営業管理担当 平成19年2月 当社取締役県央エリア事業部長 平成20年8月 当社取締役フレンド21担当 平成20年8月 (株)アイエー取締役 平成20年10月 (株)アイエー常務取締役岐阜支社長 平成23年2月 (株)アイエー常務取締役営業副本部長兼商品部長 平成24年2月 (株)アイエー専務取締役営業本部長 平成24年6月 当社取締役(現任) 平成26年5月 (株)オートバックス神奈川取締役 平成27年3月 (株)アイエー取締役副社長 営業本部長(現任)	31,000株

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 取締役として重要な経営上の意思決定に参加していただく以上、企業経営の理解に加え、当社が属する業界に関して知見を有する方で、かつ経営への客観的な意見をいただける方を社外取締役として考えております。適任者でない方を社外取締役として選任した場合、当社経営の機動性等を害する一方、取締役会に期待される機能が果たされない可能性があり、相当てないと判断したため、本総会においては社外取締役の選任議案を上程しておりません。引き続き、当社の社外取締役として適切な人材の確保に向け、検討を行ってまいります。

以 上

メ モ

A series of 15 horizontal dashed lines for writing.

メ モ

A series of 15 horizontal dashed lines for writing.

株主総会会場ご案内図

会 場：横浜国際ホテル 2階 相模の間
横浜市西区南幸2丁目16番28
電話 045-311-1311

最寄の駅：JR、東急東横線、市営地下鉄、京浜急行、相鉄線、
みなとみらい線、横浜駅西口より徒歩5分

